



はなみずき

成生小学校 学校だより
令和7年3月18日 No.14
校長 渡邊 隆

来年度へつなぐもの

今年度も最後の月、3月の学習を終え、明日が卒業式となりました。今年一年間、成生小学校では、目指す子供の姿を「自分を信じ ともによりよく生きる子供」として、日々の学び、そして育った姿が目指したものに重なるように取り組みを進めてきました。これまでの地域の伝統でもある「挨拶」や「止まってくれた車列へのお辞儀」などを生かし、校内でも下校時に職員室や校長室で挨拶をして帰る子供たちがたくさん増えました。このように、くらしの中で望ましい姿として育つためには、学校だけでなく保護者の方をはじめ家庭の教育力、そして地域の方の支えがあって成り立つものと考えています。

学校は、学びを育む場です。学力を高めていくことが役割となりますが、ひと言で学力と言ってもいろいろな要素が含まれます。その中でも、基本的な教科で学ぶことは学校が中核となって担うものと考えます。国語科で言葉について学び、文章や話し方、書き方について力をつけていく、図工科で自分の思いを作品に投影し、試行錯誤しながら色彩豊かに、そして多様な表現で造形していく、体育科では、未だ行ったことのない動きや運動、そしてボールを扱うゲームやダンスでの模倣など、できる楽しさを味わうなど、学校だからこそ行える学びをこれからも実践していきたいと考えています。

今年の積み重ねが必ず来年の子供たちの育ちにつながっていきます。これからも、年間を通したカリキュラム・マネジメントを生かし、笑顔あふれる成生小学校を目指していきます。

修了式を行いました。

3月18日に、令和6年度すべての学年での学習が修了したことを証する、修了式を行いました。今回は代表として、5年三宅陽登さんと6年滝口愛佑菜さんから発表がありました。陽登さんは、学習に集中して取り組めたこと、言われなくても手伝いできたこと、来年最高学年となることへの意気込みも含めて伝えてくれました。愛佑菜さんは、責任ある行動を心がけることで班のみんなが関わりながら成長してくれたこと、算数で先生や友達に聞きながら納得のいくまで努力できたこと、中学校でも学習と部活動を中心に生活を充実させていきたいことなどを伝えてくれました。1年間、目標を決めて、日々しっかりと取り組んだことが、自信をもって発表できる姿につながったと思われます。全校生も自分のことを振り返りながら、成長できたことを実感していたようです。



卒業式全体学習

卒業式の全体学習では、正しい所作や歌うポイント、式での具体的な自分の姿などをイメージして、見通しをもつことをねらいにして取り組みました。緊張感のある中、卒業生の入場、証書の受け渡し、合唱、呼びかけまで、一生懸命に行う姿が見られました。特に、6年生の所作が、きびきびしていて自信をもって学習に臨んでいる様子が伺えました。19日の式典当日は、子供たちの思いのこもった歌声と晴れやかな姿をご覧いただけたと思います。



児童会引き継ぎ式

3月5日（水）に、児童会引き継ぎ式を行いました。全校生が講堂に集合した中で、6年生・5年生の委員長さん、副委員長さんから、今年のふり返りと来年度頑張ることについて発表がありました。それぞれの委員会で、もっと頑張りたいことなどもあったようですが、リーダーとして伝えたいことを全校生にしっかり訴える姿がありました。これまで、集会などではiPadを見ながら話すことが多かったのですが、今回は、思いを伝えたいという姿勢がしっかりと現れていて、次へつないでほしいという6年生の思いを感じました。



3月までの表彰

《川をきれいにする児童図画コンクール》

佳作 3年 須藤 珀人さん 4年 國井 花楓さん

《天童市教育委員会児童褒賞》

6年 武田 桃花さん（珠算）

《天童市スポーツ協会表彰》

6年 伊藤 雄太さん（体操） 5年 清野 未華さん、3年 清野 全さん（水泳）



6年生を送る会

2月28日（金）にもうすぐ巣立つ6年生のために、5年生が中心となって6年生を送る会を行いました。これまで、5年生が計画してきた、色紙に集約したメッセージ渡しや縦割り班活動で行うゲームなどが行われ、みんな楽しく取り組むことができました。最後に、6年生からメッセージカードと歌・呼びかけのプレゼントがあり、最後の集会となることも合わせて、互いに心通わせる時間となりました。



サケの稚魚放流

3月12日（水）に、2年生が押切川でサケの稚魚放流に取り組みました。当日は、成生地域づくり委員会の方々为中心となり、地域の方々が大切に育ててくださった、水槽に入ったたくさんのサケの稚魚を、小ぶりのバケツに移してから放流しました。天童市教育委員会の方はじめ、清野釣具店さん、奥山公民館長さんなども見守る中、自分たちが放流したサケが踊るように川に入って泳ぐ様子を見て、元気に育っていったねと思いを込めている様子が伺えました。これから、サケの稚魚たちは大きく大きく成長していきます。自分たちも負けられないように頑張って、6年生になったら、また、押切川に戻ってきただけのようにお願いして、放流を行っていました。

